

## 【第 93 回対策本部会議】 8 月 6 日

健康福祉部長／昨日の感染者数は、44 人。40 人を超えるのは 5 月 19 日以来。本日は 34 人。ここ 4 日間の感染経路不明者は、10 人以上が続いている。  
入院者数は 90 人、病床使用率は 23.9%。ホテル療養者数は 117 人、ホテル使用率は 23.6%。

### 人口 10 万人当たりの 1 週間の感染者数(7 月 1 日～8 月 5 日)

東京都は、全国 2 番目で 183.38 人。大阪府は、75.47 人で 6 番目。福岡県は 73.55 人で 7 番目。いずれもグラフの傾斜が急激に上昇し、急速に増加していることがわかる。  
九州各県は、熊本県が 35.81 人で 18 番目。佐賀県は 21.72 人で 27 番目。

最近の感染事例を紹介する。

- ・職場の同僚や飲み会仲間で、友人宅で飲んだ後、居酒屋を数件はしごした。数日後、症状が出て陽性が判明。職場、家族への感染が広がった。
- ・友人数人が県外で会食し、翌日はカラオケを共にした事例。仲間同士のため、マスクを外すこともあった。数日後、発熱症状があり、陽性が判明。その後の検査で、友人、家族への感染を確認した。
- ・久しぶりに友人が集まり会食し、数人で友人宅に宿泊。その後、うち 1 人の陽性が判明し、自身も感染した。

週末の 3 連休やお盆は、友人や親せきの集まる機会が増える。ふだん、生活を共にしていない人と飲食や会話をする場合、感染リスクが高まる。リスクの高い行動を控え、感染対策の徹底をお願いします。

症状が出た場合、職場で感染を広げないためにも出勤を控えてほしい。職場は、休みやすい環境を整えてほしい。

### 「佐賀県接種支援会場」追加ワクチン接種が決定しました

ワクチン接種調整チームリーダー／8 月 21 日から 10 月 9 日の毎週土曜日、計 4 組が接種できるモデルナワクチンの供給を受けた。1 組あたり 500 人分。

対象者は、県内の保育所や幼稚園の職員、小・中学校・高校の教職員、警察職員、高齢者施設・障害者施設の職員、65 歳以上の高齢者の予約を受け付ける。

予約方法は、施設や学校を通じて案内する。65 歳以上の高齢者は、往復はがきで先着順に受け付ける。詳細は、県のホームページで確認を。

### 第 13 クールのファイザーワクチン配分量

ワクチン接種調整チーム副リーダー／埼玉県 857 箱、神奈川県 824 箱、東京都 716 箱と、都

市部に多く配分されている。本県は 28 箱。1 箱で 1170 回の接種ができる。

#### 佐賀県へのファイザーワクチンの配分量の推移

接種回数を単位にしたグラフ。8 月 30 日から 2 週間ごとに、3 万 3000 回分の配分が 3 回ある。これは、12 歳以上の人口の 8 割に当たる数量から、これまでに配分されたものを差し引き、残りを 3 回に分けた量。

この回から急に減ったのは、国の配分に対する考え方が変わったから。これまでは、早いところから終わっていく考え方だったが、10 月上旬に全都道府県の 12 歳以上人口の 8 割が終わるような考え方に変わった。

接種のスピードを落としてやっていくしかない。

坂本副知事／ワクチンは、少ないながらも来るのだから、若い人に受けてもらうよう関係機関の皆さんは働きかけをお願いします。

今回の配分の方法では、接種が進んでいない都市部に人口比で配分するようになり、滞留分が増えるだけではないか。

人口以上のワクチンを欲しがっているのではない。接種のスピードを上げるため、従来通りの配分にしてほしい。

知事／これまでの政府の方針に従わず、ゆっくりと接種をしていた方が、これからの配分量が増えるとは、おかしい。ゆっくり接種していたところに、今度は大量のワクチンが来る。余らせたらどうするのか。

坂本副知事／早く接種するノウハウが確立していないのだから、滞留分が積み上がるだけ。

ワクチン接種調整チーム副リーダー／都道府県ごとに、佐賀県が終わり、山口県が終わり、というふうに進んでいるところを、先に終わらせていく形がいいと個人的には思う。

知事／山口県が 10 箱しか配分されないのはなぜか。

ワクチン接種調整チーム副リーダー／山口県も今まで、多く配分を受けていたので、少ないのでは。

知事／政府の方針は頻繁に変わる。本県は、政府の方針通りに取り組んできたが、ストップかけられたような状態だ。信じがたい。

政策部長／今までは、進めるところをしっかりと進めていく方針だった。今後は、進んでいないと

ころを考慮して、平等に配るらしい。今までの方法の方が、日本全体の接種率は上がるのではないかと考えたが、国には通じなかった。

医療統括監／現在、8割を超えて接種が終わっている場合、他の年齢の接種分が不足するのではないかと。

坂本副知事／本県は、高齢者の接種率が90%。

司会／ワクチンチームは、引き続き働きかけをお願いします。

知事／感染者の1桁が58日続いた後、11日連続2桁になっている。若い人を中心に、病床の占有率が23.9%に増えているが、重症者、死者は49日間いないのも特徴。感染者の7割以上が30代以下。高齢者向けにワクチン接種を推進してきたことが大きい。

今まで、若い人は、感染しても軽症か無症状で、ホテル療養だった。しかし、現在、中等症に変わってきている。中等症は、熱、咳、呼吸困難を伴う。若い感染者が多いのに、病床占有率が23.9%まで上がっているのは、中等症が増えているから。

さまざまな状況を想定して、先手先手で取り組む。中等症で入院した人も、快方に向かえば、下り搬送するという「プロジェクトM」を丹念にやっていく。都市部は、その部分のオペレーションができていない。

救急の病院が機能している、一般診療が通常通り受診できる、がん検診が受けられるのも、コロナのオペレーションが機能しているおかげ。

#### 県民の皆様へ

熊本県が、まん延防止措置の対象地域になった。九州各県の状況も変わってきているので、呼びかけを修正する。

- ・県外との往来と県外での会食は自粛してください。どうしても必要な移動も慎重に判断。
- ・お盆の帰省は、首都圏、関西圏及び福岡県からの規制は、極力控えていただくようお願いします。どうしても必要な場合は、事前の徹底した体調管理やPCR検査で陰性を確認してから帰省してください。

今日の感染者34人を年代別にした。30代以下が73%。40～60代は少なく、70～80代はいない。夏休みを楽しみたい気持ちはわかるが、若い人でも重症化するケースも増えている。友達、家族に感染するケースも多い。

陽性になっても、調査で濃厚接触者を特定しやすくするような行動にとどめてほしい。

高齢者の感染や重症化が減っているのは、国からのワクチン供給のおかげ。今回の配分については、残念な通知がきた。減った配分の中で、戦略的な取り組みを考えて、感染者数を抑えるよう全力を尽くす。

知事会で毎回言っているが、政府には、供給量を増やすことと水際対策の2つをお願いしたい。

医療現場、介護、福祉、保育所、教育現場、市町の職員、県職員、県民の皆さんの取り組みに感謝する。佐賀県は慈しみの県。エールを送り合ってほしい。

今後ともチーム佐賀、オール佐賀で1つになって乗り越えたい。